

命名し、それが日付変更線を越えて東経域に入っても日本の気象庁は米国の付けた呼び名をそのまま用いる。逆に台風が日付変更線を西から東に越えて西経域に入った場合も同様で、米国は日本の気象庁が付けた呼び名をそのまま用いる。

6.2 学術論文での呼び名

本来、学術論文で熱帯低気圧にどのような名称を用いるべきかということは、気象業務における呼び名とは別の次元の話である。しかし、実際には気象業務を実施する機関と学会との間に幅広い交流があるので、なるべく共通の名称を用いた方がお互いに便利なのが多いはずである。

最近の使用例を見てみると、米国気象学会の論文誌での熱帯低気圧の呼び方としては、(英語の)人名と年号の組み合わせが用いられることが多い。一方、日本

気象学会の論文誌「気象集誌」では、人名と年号の組み合わせ、国際共通番号と人名を併記しているもの、国際共通番号のみのものなど、まちまちである。

国際共通番号には年号の情報が含まれているのでそれだけで台風を同定することができる。また、その年の台風の通し番号の部分の大小によって大まかな季節を推測することも不可能ではない。一方、(英語の)人名やアジア名は、持っている情報量は少ないが、数字だけの並びに比べてより印象に残りやすいという利点がある。

2000年以降、外国の論文誌や国際的な報道の分野での北西太平洋の台風の呼称としては、アジア名が広く使われることが予想される。この機会に、日本の論文誌でも共通の呼称としてのアジア名を、国際共通番号と併記して用いるようにしてはどうだろうか。



教官（東京大学大気海洋科学グループ）の公募

東京大学 大学院理学系研究科では平成12年度から既存4専攻を改組し、新しく地球惑星科学専攻を発足する準備を進めています。このことに関連し大気海洋科学グループでは以下の公募を行うことになりましたのでよろしくご願ひ申し上げます。

公募人員と研究教育分野：

- A) 助教授 1名 (気象力学, 大気大循環, メソ気象などいわゆる気象学を中心とした分野)
 B) 教授または助教授 1名 (大気海洋の物質循環や組成変動などを中心とする分野)

応募資格：博士の学位を有し、当該分野の研究と学部および大学院教育に情熱を有すること。

着任時期：平成12年4月1日を希望

提出書類：

- 1) 応募研究教育分野 (A) または (B) を明記)
- 2) 略歴書 (学歴と職歴)
- 3) 業績目録 (査読論文とそれ以外の総説、著書など

に分類)

- 4) 主要論文別刷 (コピー可) 5編以内
- 5) 研究教育業績の概要 (A4版用紙一枚に要約)
- 6) 今後の研究計画と抱負 (A4版用紙一枚に要約, ただし推薦の場合は不要)
- 7) ご本人が応募される場合には所見を伺える方2名の氏名と連絡先, 適任者をご推薦いただける場合には推薦状。

応募・推薦の締め切り：平成11年12月6日 (月) 必着
 書類提出先：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院理学系研究科
 地球惑星物理学専攻事務室

問い合わせ先：東京大学大学院理学系研究科

地球惑星物理学専攻

大気海洋物理学講座 教授 山形俊男

Tel : 03-5841-4297 FAX : 03-3818-3247

E-mail : yamagata@geoph.s.u-tokyo.ac.jp